

問1 鎌倉時代から室町時代にかけての日本の農業について述べた文として、当時の技術や社会背景をふまえて最も適切なものはどれですか。14世紀末の農業の様子を描いた絵巻物の記録などに基づき、正しい内容を選びなさい。(2017年 鳥取公立入試 類似)

1. 西日本を中心に、同じ耕地で夏に米、冬に麦を栽培する二毛作が広まり、牛馬による耕作も行われるようになった。
2. 石包丁を用いて稲の穂の部分だけを摘み取る収穫方法が全国に広まり、食料生産が安定した。
3. 備中鉾と呼ばれる深く耕すための農具が発明されたことで、大規模な新田開発が幕府主導で進められた。
4. 海外輸出を目的とした製糸業が農村の副業として定着し、全国の耕地で桑の栽培が米より優先された。

問2 1401年から1549年にかけて行われた日明貿易(勘合貿易)の変遷を記録した資料によれば、貿易船の派遣主体は時期によって大きく変化しています。この貿易の担い手の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2022年 鳥取公立入試 類似)

1. 貿易の開始当初は幕府が中心となって船を派遣していたが、時代が下るにつれて、大内氏や細川氏などの有力な守護大名が主導する形へと変化した。
2. 貿易の開始当初は守護大名が自由に船を派遣していたが、幕府の権力が強化されるにつれて、後半になるほど幕府による一括管理が徹底された。
3. 貿易の全期間を通じて、幕府は一切関与せず、常に地方の有力な守護大名が自立して明の皇帝と直接交渉を行っていた。
4. 貿易の初期には朝廷が中心的な役割を果たしていたが、南北朝の合一が進むにつれて、派遣主体は武士から特権商人へと一本化された。

問3 明治時代末期から大正時代にかけて、藩閥や官僚による専制的な政治を批判し、「憲政擁護・門閥打破」をスローガンに掲げて起こった、憲法に基づく議会政治を守ろうとする民衆運動を何といいますか。(2024年 鳥取公立入試 類似)

1. 護憲運動
2. 自由民権運動
3. 大政奉還
4. 国家総動員体制

問4 現代社会において、多くの企業が利潤の最大化だけでなく「企業の社会的責任」を重視した経営を行うようになってきている理由として、最も適切な説明はどれですか。(2023年 鳥取公立入試 類似)

1. 公害問題や食品偽装などの不正を防ぎ、社会の持続可能性と企業の長期的信頼を確保する必要があるため。
2. 政府がすべての企業の経営方針を決定しており、社会貢献をしない企業には重罰を科す制度があるため。
3. 社会貢献活動にかかる費用はすべて政府から補助金として支給され、企業の利益が確実に増える仕組みだから。
4. ボランティア活動に専念することで、本来の目的である利潤の追求を完全に停止し、非営利組織に移行するため。

問5 1985年から2015年にかけての四国地方と他地域間の交通手段の変化をまとめた統計において、かつて主要な移動手段であった船舶の利用割合が激減し、代わって自動車の利用が急増して全体の過半数を占めるようになりました。このような交通の変化をもたらした最大の要因として、最も適切なものはどれですか。(2020年 鳥取公立入試 類似)

1. 瀬戸大橋をはじめとする本州四国連絡橋が相次いで開通し、本州との間の陸上交通網が整備されたこと
2. 四国全域を網羅する新幹線網が完成したことにより、鉄道と自動車の連携による移動が普及したこと
3. 格安航空会社(LCC)の参入によって航空機の利用料金が下がり、船舶から航空機への転換が進んだこと
4. 環境保護の観点から瀬戸内海での大型船舶の航行が厳しく制限され、物流の主役がトラックへ移行したこと

問6 日本国憲法が定める三権分立の仕組みにおいて、権力の集中を防ぐために、行政・立法・司法の三権は互いに抑制し合っています。このうち、内閣が司法(裁判所)に対して持っている抑制手段として正しいものはどれですか。(2020年 鳥取公立入試 類似)

1. 最高裁判所の長官を指名し、その他の裁判官を任命する権限
2. 法律が憲法に違反していないかどうかを決定する違憲審査権
3. 国政に関する調査を行い、証人の出頭や証言を求める国政調査権
4. 国会が締結に同意した条約を、相手国との間で承認する権限

問7 電流が流れている導線の周りに方位磁針を置き、電流の大きさを変えたり方位磁針を置く位置を変えたりして、磁界の強さがどのように変化するかを調べる実験を行いました。この実験における観察結果の説明として最も適切なものはどれですか。(2020年 鳥取公立入試 類似)

1. 導線に流す電流の大きさを大きくすると、磁界の強さが強くなり、方位磁針の振れが大きくなる。
2. 導線に流す電流の大きさを大きくしても、磁界の強さは変化せず、方位磁針の振れは変わらない。
3. 導線に流す電流の大きさを小さくすると、磁界の強さが強くなり、方位磁針の振れが大きくなる。
4. 導線に流す電流の大きさを大きくすると、磁界の強さが弱くなり、方位磁針の振れが小さくなる。

問8 シカなどの脊椎動物において、子が雌の体内にある子宮で、親から酸素や養分をもらって成長してから生まれるふえ方を何とというか。(2019年 鳥取公立入試 類似)

1. 胎生
2. 卵生
3. 変態
4. 栄養生殖

問9 電流計や電圧計の目盛りを読み取る際、指針が最小目盛りの間にある場合の一般的なルールとして適切なものはどれか。(2015年 鳥取公立入試 類似)

1. 最小目盛りの10分の1までを目分量で読み取る
2. もっとも近い位置にある最小目盛りの数値をそのまま読み取る
3. 最小目盛りの2分の1までを目分量で読み取る
4. 目盛りの間に指針がある場合は、切り捨てて読み取る

問10 2015年の野菜産出額の統計において、1位の北海道に続き、2位に茨城県、3位に千葉県、7位に埼玉県、9位に栃木県と、関東地方の各県が上位に多くランクインしています。このように、大都市の周辺で行われ、消費地に近い利点を生かした農業を何といいますか。(2017年 鳥取公立入試 類似)

1. 近郊農業
2. 促成栽培
3. 高冷地農業
4. 施設園芸農業

問11 電圧と電流の関係調べる実験において、ある抵抗器に3.0Vの電圧を加えたところ、200mAの電流が流れました。また、電圧を6.0Vに上げると400mAの電流が流れました。この実験結果から導き出される、この抵抗器の抵抗値として正しいものを選択してください。(2022年 鳥取公立入試 類似)

1. 0.015Ω
2. 1.5Ω
3. 15Ω
4. 150Ω

問12 飛鳥時代、聖徳太子(厩戸王)が、政治に関わる役人の心構えを説き、天皇の命令には必ず従うべきであることなどを示した法を何といいますか。(2021年 鳥取公立入試 類似)

1. 十七条の憲法
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 五箇条の御誓文

問13 記録タイマーで記録されたテープにおいて、特定の区間の移動距離を、その移動にかかった時間で割って算出した速さを何とというか。その区間内での細かい速さの変化を考慮せず、全区間を一定の速さで移動し続けたとみなしたときの名称を答えなさい。(2017年 鳥取公立入試 類似)

1. 瞬間の速さ
2. 平均の速さ
3. 等速直線運動
4. 相対速度

答え合わせ・解説

問1	答え 1 西日本を中心に、同じ耕地で夏に米、冬に麦を栽培する二毛作が広まり、牛馬による耕作も行われるようになった。	鎌倉時代、西日本から始まった二毛作は、農業生産力を飛躍的に高めました。これは夏に主食となる米を、冬には裏作として麦を育てる仕組みです。また、この時期には牛や馬に農具を引かせて田畑を深く耕す「牛馬耕」や、草木を焼いた灰を肥料にする「草木灰」の利用、灌漑用の水車の普及など、技術的な進歩が重なったことで中世の農業は大きく発展しました。選択肢にある石包丁は弥生時代、備中鍬は江戸時代、製糸業の近代化は明治時代以降の特徴であるため、時代背景が異なります。
問2	答え 1 貿易の開始当初は幕府が中心となって船を派遣していたが、時代が下るにつれて、大内氏や細川氏などの有力な守護大名が主導する形へと変化した。	日明貿易の実施記録を分析すると、15世紀の開始からしばらくは足利将軍家（幕府）が主体となって貿易を主導していましたが、15世紀後半の応仁の乱を境に状況が一変します。幕府の力が弱まると、山口の大内氏や畿内の細川氏といった守護大名が、それぞれ博多や堺の豪商と連携して独自に船を出すようになりました。最終的には大内氏が貿易を独占するに至りますが、このように政治の中心である幕府の衰退が、外交や経済の主導権が地方の大名へ移る原因となりました。
問3	答え 1 護憲運動	1912年に桂太郎内閣が軍備拡張を目指して強引な政権運営を行ったことに対し、尾崎行雄や犬養毅らが中心となって展開されました。この運動は民衆の支持を集めて拡大し、最終的に桂内閣を総辞職に追い込みました。日本の政治が議会や政党の意向を重視する「大正デモクラシー」へと向かう大きな転換点となりました。
問4	答え 1 公害問題や食品偽装などの不正を防ぎ、社会の持続可能性と企業の長期的信頼を確保する必要があるため。	かつての高度経済成長期などには、企業の利益追求の結果として公害などの社会問題が発生しました。その反省から、現代では社会全体の持続可能性を重視する考え方が強まっています。また、消費者が環境や社会に配慮した企業を支持する傾向（エシカル消費など）もあり、責任を果たすことが企業の存続と信頼獲得に直結しています。
問5	答え 1 瀬戸大橋をはじめとする本州四国連絡橋が相次いで開通し、本州との間の陸上交通網が整備されたこと	1988年の瀬戸大橋開通を皮切りに、神戸・鳴門ルート、尾道・今治ルート（しまなみ海道）といった本州四国連絡橋が次々と整備されました。これにより、それまで船舶に頼っていた本州への移動が、自家用車や高速バス、トラックなどの自動車中心へと劇的に変化しました。この変化は「陸続き」になったことによる利便性の向上を象徴しています。
問6	答え 1 最高裁判所の長官を指名し、その他の裁判官を任命する権限	日本国憲法では、三権（立法・行政・司法）が互いに独立し、バランスを保つことで国民の権利を守る三権分立の制度が採用されています。内閣（行政）から司法（裁判所）への抑制手段としては、人事を通じた関与が定められています。具体的には、最高裁判所の長官については内閣が指名を行い（任命は天皇が行う）、それ以外の裁判官については内閣が直接任命を行うことで、司法の公正さを担保しつつ抑制を働かせています。違憲審査権は司法から他の機関への抑制、国政調査権は立法府の権限、条約の承認は行政の一般的な権限であり、司法への抑制には当たりません。
問7	答え 1 導線に流す電流の大きさを大きくすると、磁界の強さが強くなり、方位磁針の振れが大きくなる。	電流がつくる磁界の強さは、導線に流れる電流の大きさに比例する性質がある。そのため、電流の値を大きくするほど磁界は強くなり、その場所に置いた方位磁針が受ける磁界の力も増すため、結果として針の振れる角度が大きくなる。
問8	答え 1 胎生	脊椎動物のうち、特に哺乳類に見られるふえ方の名称である。雌の体内に子宮という特別な器官があり、そこで子が十分に育ってから生まれるのが特徴である。
問9	答え 1 最小目盛りの10分の1までを目分量で読み取る	電流計や電圧計などの目盛りを読み取る際は、測定の精度を高めるために、最小目盛りの10分の1までを目分量で読み取ることが基本のルールとなっています。ただし、デジタル式の場合や特定の指示がある場合を除き、アナログ指針の計器全般に共通する作法です。
問10	答え 1 近郊農業	東京などの大消費地を控える関東地方では、市場への近さを生かして新鮮な野菜を迅速に出荷する農業が発達しました。統計で上位に入っている茨城県や千葉県は、その代表的な地域です。輸送距離が短いため、鮮度を保ったまま市場に供給できることが大きな強みとなっています。
問11	答え 3 15Ω	オームの法則（電圧＝抵抗×電流）に基づき、抵抗値を求めます。200mAをアンペアに換算すると0.2Aです。3.0V ÷ 0.2A、または6.0V ÷ 0.4Aを計算すると、抵抗値は15Ωとなります。計算の際は単位をミリアンペアからアンペアに直すことが重要です。
問12	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に制定されました。役人に対して道徳的な訓戒を与え、天皇を中心とした国家体制（中央集権国家）を築くことを目的としています。仏教や儒教の教えが取り入れられている点も大きな特徴です。
問13	答え 2 平均の速さ	物体の速さが刻々と変化している場合でも、ある一定の区間を一定の速さで移動したとみなして、距離を時間で割って求めた値を平均の速さと呼ぶ。これに対し、スピードメーターが示すような、ごく短い時間に移動した距離から求めた極めて短い時間の速さを瞬間の速さと呼び、両者は区別される。